

図りながら、希望する暮らしを送るための住まいの場であることを踏まえる必要があることから、1つの建物におけるグループホームの定員は原則として10名を超えないものとしております。

しかしながら、障がい者の重度化・高齢化に対応していくために、平成30年度の報酬改定において、最大20名までの入居定員を認める「日中サービス支援型」という類型が創設されたところです。国においてグループホームの新たな類型が設けられたことや、いただいたご要望を踏まえ、「住まいの場」というグループホームの趣旨を守りつつ一層の整備促進を進めていくための定員規模のあり方等について、検討してまいります。

障がいのある人が新型コロナウイルス感染症に罹患した際には、障がいの軽重を問わず、適切な医療や支援を受けることができる体制整備を要望する。

【担当】
健康局 保険所 感染症対策課
電話：06-6647-0739

本市では、「大阪府新型コロナウイルス対策本部」に参画し、関係機関と情報共有するとともに、「大阪市新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、医療機関等と連携しながら、感染拡大防止に向けて、全力で取り組んでいるところです。

大阪府では新型コロナ患者発生増加に伴い、公的医療機関等に対して、新型コロナ患者受入病床の確保の要請など、必要な病床の確保に取り組んでおり、宿泊療養施設についても整備を進めています。

また、患者の入院・宿泊療養先の手配については、大阪府に設置されている新型コロナウイルス感染症にかかる入院フォローアップセンターと連携し、それぞれの症状や状況をふまえて、受入医療機関や宿泊療養施設を調整しております。

引き続き、大阪府や関係機関等と連携を図りながら、感染拡大防止に向けて取り組んでまいります。

新年度を迎えて ～法人内各施設より～

令和3年の新年度を迎え、法人内の各事業所では管理者をはじめ人事異動がありました。(詳細は13面に掲載しています。)各事業所の管理者から就任のご挨拶をいただきました。

法人事務局 事務局長 飯塚 聡



昨年度の4月には、時代に取り残されないように、「いい所」は残しながら新たなものを取り入れることをここで書きました。これまでの一年間、社会の構造は新型コロナウイルス感染症により、大きく変化をしてきました。この状況は全国手をつなぐ育成会連合会でも同様です。

10月に開催予定であった全国大会・愛媛大会をはじめ、各地区のブロック大会や県大会の多くは中止もしくは延期となりました。要因の一つは、やはり参集型で密になってしまうことと人の移動にあります。

今までは様々な地域から集まることにより、情報交換や意見交換がされてきましたが、それらの状況を避けなくてはならなくなりました。

全国連合会でも様々な会議や研修会を延期や中止のままにしておけないと、大きく舵を切って全国連合会の委員会や各ブロックの会議は、インターネットを利用したWEB会議に変更し、12月には全国規模の研修会の「啓発キャラバン隊オンライン研修会」はWEB研修会としてライブ開催され、2月の大会が主管で実施することになっていた全国事業所協議会全国研修大会についても、WEB研修会として動画配信サイトのYouTubeを利用した事前収録による開催としました。

これらの会議や研修会で判明したメリットとしては、遠方で参加が出来なかった方が参加できたこと、録画配信が可能なものについては、日程が合わない方も視聴できたことや、時間が無い方は分割しながら視聴ができたことです。

一方で、デメリットとしては、パソコンやスマートフォンを持たない方や、インターネットを使うことが出来ない方が参加できなかったこととなります。また、研修会の登壇者としては、実際に参加の皆さまの反応を感じ取ることが出来ないことも難点の一つでした。

それでも、今後は感染症が収束しても、これらの形態での研修会や会議の開催は続けられるかと思っておりますので、大阪市育成会の皆さま方が新たな方式での開催に参加することができるよう、事務局としても解りやすくお伝えし、技術的なサポートができるようして参りたいと考えています。

また、かねてからの課題となっています若い世代の会員を増やすために、大阪市育成会ではホームページの他にSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス:人と人の繋がりを作り出すことを支援するインターネットサービス)のFacebook(フェイスブック)とInstagram(インスタグラム)で活動状況の発信をしていますので、もし良ければ見てください。

◆Facebook

<https://www.facebook.com/yo.okoshi>

◆Instagram

https://www.instagram.com/yo_okoshi/

東成育成園 管理者 長谷 弥朋



足早に桜の季節が通り過ぎ、若葉の緑が目眩しい季節になってまいりました。令和3年度4月より東成育成園の管理者を拝命しました長谷弥朋です。よろしくお願いいたします。大阪市手をつなぐ育成会に勤務させていただいてから、初めて東成育成園に勤務させていただくことになり、期待と不安が入り混じった状態で地に足の着かない気持ちで過ごしています。

昨年度の福島育成園では、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底すること、施設でクラスターを発生させないことの徹底に終始して取り組んでまいりましたが、今年度の東成育成園では、昨年度と同様に感染症蔓延防止対策の徹底を継続して取り組みながらも、新型コロナウイルスと共生しなければいけないと感じています。コロナ禍でありながらもご利用者一人ひとりの色々な気持ちに寄り合い、それぞれの思いを汲みとりながら支援を行ってまいります。

コロナだからできないと諦めるのではなく、コロナ禍でもできること、コロナ禍でもどのような工夫があれば実施することができるか、限られた条件の中でどのような工夫が必要なのかを改めて考え直すなど発想の転換が必要になってきています。

初めての東成育成園で勤務になりますので、分からないことがたくさんありますが、歴代の施設長がされていた良い取り組みを継承しながら、新型コロナと共生できるような新しい活動を目指してまいります。

今年度4月より、新しい正規職員が1名加わりました。新しい風を取り入れながら、職員一丸となって、東成育成園をご利用していただいているご利用者一人ひとりが心豊かに過ごせるように支援を行ってまいりますので、ご指導の程、どうぞよろしくお願いいたします。

港育成園 管理者 藤原 勇治



今年度、松本管理者の後任として、港育成園の管理者を拝命しました藤原勇治です。よろしくお願いいたします。私自身は、平成元年度に育成会に入職した際に、初めて勤務させていただいたのが港育成園でした。6年間の勤務後、

人事異動があり、3か所の施設で勤務しました。2度目は平成18年から3年間、今度は相談業務を中心に港育成園で勤務しました。その際には、あまり現場に入ることはなく、後半は、ぼるとでの勤務が主でした。その後、通勤寮での勤務が2年間、福島エリアでの勤務が8年間あり、前職は、就業生活支援センターで勤務していました。港育成園に配属になるのは、前は平成21年度迄でしたので、12年ぶりの勤務となります。

今年の3月に、私が港育成園に初めて勤務した時に、同じ作業室で過ごしたご利用者のお1人の方がお亡くなりになりました。これまでも何人かのご利用者をお見送りしてきました。同様、多くの保護者の方の訃報にも触れました。港育成園自体、平成元年4月の開所で、33年目を迎えますので、当時養護学校から新卒で利用を開始されたご利用者は既に50才代、その保護者は、当時40代の方々が多くおられたので、現在は70代真ん中あたりの方が多いと思われていますが、確実にそれだけの時間が経過しています。

私が入職した当時は、育成会では、養護学校の卒業後の活動の場所・働く場所としての、作業所を作っていくことに力を入れていた時代でした。また、『親亡き後』が最大の課題と言われていました。次に、地域の中で暮らすためのグループホームを広げていくことが時代の流れで、当時は、就労要件が問われ、

